

香川県東かがわ市の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月8日実施）

令和2年11月8日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、1例目の農場から約40キロ離れた丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林や水田、休耕地に囲まれている。また、農場敷地の周囲に複数のため池があり、鶏舎から最も近いものまでの距離は約70メートルであった。また、農場から約200メートル離れたところに長径約170メートル、約700メートル離れたところに長径約190メートルの池があるが、水鳥が確認されたのは3つ目の池のみで、渡り鳥であるマガモ5羽、オオバン1羽のほか留鳥であるカイツブリ1羽、カワウ1羽が確認された。
- ② 当該農場には鶏舎が3棟あり、いずれの鶏舎にも採卵鶏が飼養されていた。孵化場やGPセンターは併設されていなかった。3棟の鶏舎のうち、発生鶏舎は農場の中央に位置していた。

2 通報までの経緯

- ① 管理人によると、発生鶏舎の一番奥のケージの1つで、11月5日に、これまでに経験がないような肉冠の赤色化を伴う12羽の死亡があり、不審に思っていたところ、隣接のケージで6日に3羽、7日に19羽の死亡があったことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 異常があったケージは、通常の飼養管理での作業者の出入り口とは反対にあたり、4日ごとに行う鶏糞搬出作業の出入り口や除糞ベルトの出口に近かった。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では3名の従業員が専属で管理を行っており、毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、農場内の死亡鶏処理装置にて処理している。なお、従業員ごとに、担当する鶏舎は分かれていない。これと別に、集卵作業のみを行う従業員2名が従事しているが、鶏舎には入らないとのこと。
- ② 管理人によると、従業員は農場専用の長靴と手袋を使用し、鶏舎に入る際には踏み込み消毒を実施していたが、長靴や手袋は交換していなかった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ② 飼養鶏への給与水は、地下水を農場内の貯水タンクに貯蔵し、塩素消毒の後、各鶏舎に供給されている。
- ③ 鶏舎から排出された鶏糞の処理施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ④ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウトのたびに鶏糞の除去と鶏舎内の清掃・消毒を行っているとのこと。
- ⑤ 管理人によると、車両が当該農場に出入りする際、未舗装路に設定された石灰帯により消毒しているとのこと。近隣で鳥インフルエンザが発生した場合には、動力噴霧器による消毒を行うが、今年はまだ設置していなかったとのこと。
- ⑥ 発生鶏舎の鶏舎構造は片側の壁面に設置された換気扇から排気し、反対側の壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇は鶏舎内の温度に応じて自動で作動・停止するようになっている。また、鶏舎壁面はメッシュ付きの窓となっているが、カーテンが設置されており、カーテンを開けることはなかったとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎では、鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部を覆う金網に隙間があることから、小型の野生動物が侵入可能と考えられた。また、最初に異常が認められたケージは、除糞ベルトが外へ出る開口部に近い位置にあるが、管理人によると、この開口部からも小動物の侵入が可能とのことであった。換気扇の外側には開閉可能な遮閉板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まるが、異常が認められたケージ付近の換気扇の数枚の板は閉まらない状態であった。ただし、鶏舎内で、ネズミ以外の野生動物や野鳥を見たことはないとのこと。
- ② 管理人によると、定期的にネズミ対策（殺鼠剤の設置）を行っているとのこと。現地調査時には、発生鶏舎内にネズミのものと思われる小動物の糞が確認された。